

琉球大学学術リポジトリ

編集後記

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学教育センター 公開日: 2018-07-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西本, 裕輝, Nishimoto, Hiroki メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/42089

編集後記

今回は、「授業評価」を特集した。

周知のように、現在、大学評価の波が本格的に押し寄せている。特に、大学評価・学位授与機構による評価は、本学もすでに4回受けているものであるが、大学の予算配分にも直結する重要な評価である。

今後はこの大学評価・学位授与機構をはじめとした認証評価機関が大学の評価を行うことになるが、大学の評価の中でも特に教育評価を実施する際には、授業評価のデータを示すことが必須となっている。つまり、授業評価を実施した結果を外に対して示していかなければならないという外圧を受けているのである。

しかしこのような外圧を持ち出すまでもなく、そもそも授業評価を行う意義は、授業改善に繋るためである。こうしたいわば内からの力=内圧においても、授業評価の実施は一種の義務と化していると言っても過言ではない。実際、今や90%以上の大学がすでに授業評価を実施しているといわれている。本学は比較的早く、すでに授業評価を取り入れてから

10年になる。

こうした状況において、今、改めて授業評価について検討することは極めて重要であると思われる。そこで今回は、学内（学生も含む）からの授業評価についての意見を募り、掲載している。ここから問題点や今後の課題が見えてくるであろう。

また、新たなる試みとして、共通教育の授業評価データを用いての分析結果も提示している。すでに全学教育委員会において、大学教育センターが教育改善のために授業評価データをストックし、分析できることが承認されている。今回はそうした流れを受けての試みである。

本センター報により、授業評価についての議論が深まり、本学の授業改善、FD等に役立てば幸いである。また、授業評価については継続して検討していかなければならない内容を多く含んでいる。学内外からの忌憚のない意見をお寄せいただきたい。

大学教育センター助教授：西本裕輝